

Mémoire 2024

第65回 宝塚記念 (GI)



ファンの目の前を突き抜けた ブローザホーン

重馬場の外ラチ沿いを突き抜け、人馬ともGI初制覇となった。

ディープインパクトの2006年以来18年ぶりの京都開催となった宝塚記念は、止んでいた雨がスタート直前にまた降り出し、奇しくも当時と同じ雨中の一戦に。1番人気はドバイターフ5着から参戦のドウデュース、2番人気はドバイシーマクラシック4着のジャスティンパレスと、ともにドバイ帰りの2頭が人気を集めた。

レースは大阪杯3着から参戦の牝馬ルージュエヴァイユが逃げる展開となった。同じ京都芝2,200mの京都記念を勝っているプラダリア、8歳馬カラテ、大阪杯の覇者ベラジオオペラがバラバラと続き縦長となった馬群は、向正面の中ほどから徐々に詰まり始めて直線へ。粘るルージュエヴァイユに、プラダリアとベラジオオペラが外から並んで襲いかかる。そのさらに外、ファンの目の前の外ラチ沿いを豪快に伸びてきたのがブローザホーンだった。

序盤は最後方近くを進み、3コーナーから徐々に前との差を詰めてきたブローザホーンは、残り200m過ぎに先頭に立ってさらに突き放すと、最後は追い込んできたソールオリエン스에2馬身差を付けて

ゴール。5歳にして日経新春杯で重賞初制覇。阪神大賞典3着を挟んで天皇賞(春)でも2着に迫り込み、この日は3番人気に推されていたが、その高い支持に応えてみせた。

菅原明良騎手はデビュー6年目で嬉しいJRA・GI初制覇。「ものすごく嬉しいです。重馬場を苦にしないタイプで、いつもと変わらず走ってくれました」と満面の笑顔で愛馬を労った。

その菅原騎手と抱き合って喜んだ吉岡辰弥調教師もまた、開業5年目でこれがJRA・GI初制覇。定年でこの年の春に解散した中野栄治厩舎から引き継いだ馬で挙げた勝利を「ひとつGIを取れて恩返しになったと思っています」と喜んだ。

第65回宝塚記念 (GI)

6/23 京都競馬場 2,200m(芝・右・外) 曇・重 13頭									
着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位	
1	ブローザホーン	牡5	58	菅原 明良	吉岡 辰弥	2:12.0	③	①①①①⑦	⑦
2	ソールオリエンス	牡4	58	横山 武史	手塚 貴久	2	⑦	⑦⑦⑦⑦①	①
3	ベラジオオペラ	牡4	58	横山 和生	上村 洋行	クビ	⑤	③④③②	②
4	プラダリア	牡5	58	池添 謙一	池添 学	クビ	⑥	③②②①	①
5	ローシャムパーク	牡5	58	戸崎 圭太	田中 博康	3	④	⑨⑨③④	④

ブローザホーン
栄光の蹄跡

12

エビファネイア 115 L,E
ブローザホーン
オートクレール(デュランタル)
2019.5.10 生 新ひだか・岡田スタッフ



牡5
鹿

菅原 明良
2001.3.12生 O型
岡田 牧雄氏
吉岡 辰弥(栗東)

2024.4.28 京都
天皇賞(春)GI
17ト5人 2(115)
58*。菅原 明良
芝3200良 3:14.5

2024.3.17 阪神
阪神大賞典GII
15ト1人 3(111)
58*。菅原 明良
芝3000稍 3:07.6

2024.1.14 京都
日経新春杯GII
14ト1人 1(115)
57*。菅原 明良
芝2400良 2:23.7